

寺報

令和二年十一月

第八十七号

正念寺護持会発行

常陸太田市久米町二二一

電話 〇二九四一七六一二〇五八

FAX 〇二九四一七六一〇一六九

報恩講の話

報恩講が、親鸞聖人のご命日に因んだ法要であることはもう皆さまもご存じのことと思います。親鸞聖人がお亡くなりになったのは、旧暦の十一月二十八日(太陽暦にすると年が明けた一月十六日)の事です。親鸞聖人についての当時の資料は大変少なく、実はお亡くなりになった場所にもいくつかの説があります。御伝抄によると、入滅の地は、押小路南・万里小路東にある善法院(善法坊)とされています。その場所については、現在の本願寺派角坊別院(京都市右京区山ノ内御殿堂町)のある地とも、中京区御池通柳馬場上る虎石町付近ともいわれています。

当宗派である本願寺派(西本願寺)では、江戸時代末期の安政四年(1857)の宗祖聖人六百回大遠忌法要にあたり、西の万里小路に当たる山ノ内の地を往生地と考証して善法院を再興しました。これが現在の角坊別院になります。また大谷派(京都・東本願寺)では、江戸時代に建立された法泉寺の跡地に当たる、京都市立柳池中学校付近を往生地として、柳池中学校



角坊別院門前



柳池中学校前



光円寺(大谷派)

内に「見真大師遷化之旧跡」の石標を建立しています。更に、下京区西洞院松原右入る藪下町にある「光円寺(大谷派)」という説もあります。それぞれ写真を入れておきましたので、京都に行かれたときにお参りしてみてください。

入滅の地がこうして数カ所あるなら、茶毘に付された場所についても本願寺派と大谷派では場所が違っていきます。当宗派では、鳥辺山南辺に「延仁寺」があったとして、清水寺の南側の現在の大本願北東にある「御茶毘所」とあると言い、大谷派は、現在の延仁寺(京都市東山区今熊野総山町)で茶毘に付されたとしています。

お亡くなりになった場所も茶毘に付された場所もはっきりしていないわけですが、大事なことは、親鸞聖人によって伝えられた教えが、現在まで届いているという事です。法然聖人から親鸞聖人に伝えられた教えが、親鸞聖人によって花開き、『お念仏一つで救われる』という判りやすいみ教えが、現在まで多くの人たちによって受け伝えられてきた事こそが、報恩講をお勤めさせて頂く意味ではないでしょうか。

今から七五十年ほど前にお亡くなりになった親鸞聖人は、今なお「お念仏を申させて頂きましょう」と私たちに語りかけているのでしょう。だからこそ私たちは、報恩講法要を大事にして毎年お勤めさせて頂いていることだと考えます。

仏説阿彌陀經

ご法事でよく使われるお経に『仏説阿彌陀經』があります。仏説とは、お釈迦様がお説きになったという意味です。ご法事では、漢文のまま読んでおりますので、聞いている側は意味がわからず、なんとなく有り難いのかな？という感じで聞いているのではないのでしょうか。今回から、何度かにわたって『仏説阿彌陀經』を私たちが普段使っている言葉に訳して、意味が少しでも分かり易いように訳してみたいと思います。

(意識)

このような教えを聞いて、私の心の闇が解き放たれました。お釈迦様は、舎衛国の祇園精舎に一千二百五十人のとても勝れたお弟子方とともにいらつしやつた時のことです。そのうち主な方は、長老の舍利弗を始め、摩訶目犍連・摩訶伽葉・摩訶迦旃延・摩訶俱絺羅・離婆多・周利槃陀伽・難陀・阿難陀・羅睺羅・憍梵波提・寶頭盧頗羅墮・迦留陀夷・摩訶劫賓那・薄拘羅・阿菟樓駄などのお弟子方がいらつしやつた。また、文殊菩薩・弥勒菩薩・乾陀訶提菩薩・常精進菩薩などのすぐれた菩薩たちや、その他にも帝釈天など、非常に沢山のさまざまな神も一緒に聞いていた。

その時お釈迦様は、舍利弗に仰つた。ここから西の方へ、十万億の仏さまの国(宇宙の果て)を過ぎたところに、極楽と言う世界があり、そこにいらつしやる仏を阿彌陀仏と申しあげ、今も教えを説いていらつしやる。

舍利弗よ、その世界には四苦八苦と呼ばれるような苦



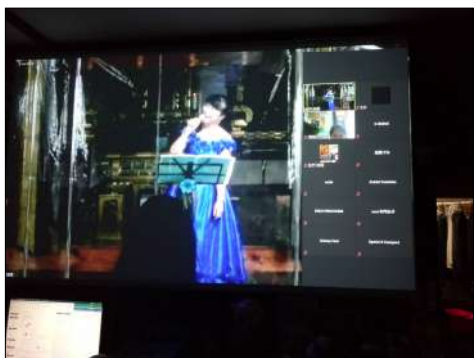
しみ(自分の思い通りにならないという苦しみ)も無く、ただ沢山の楽(物欲によって得られるものや、心の持ちようでなく、常に楽しみや幸せが感じられる身になること)だけを受けているから、極楽と名付けるのである。

彼岸花逍遙

花祭りに行う予定だった二期一会コンサートを、去る九月十九日に行いました。今回も天下井朱美様にお願ひして、盛会の内に終わることが出来ました。

今回は、新型コロナウイルスの問題もあり、それぞれの安全も考えて、今まではだいたい様子の違う形でのコンサートになりました。もちろん本堂がステージなのは今までと同じですが、ビニールのカーテンを使ったり、ZOOMでの配信を行うなど、インターネットも利用しての行事になりました。お陰さまで、直接本堂で聴いて下さった方その他、ZOOMでの聴取者の方も結構いらつしやいます。有り難い想いの中、コンサートを終了させて頂きました。

今後は、様々な行事において、ZOOMを利用しての配信を行う予定にしております。そちらでもどうぞお楽しみ下さい。



次号へつづく

参れり寺カード10ポイント達成報告



この度、井坂友之様が、参れり寺カード10ポイントを達成されましたので、ご報告致します。このところの新型コロナウイルス感染症の流行のために、法要参加者の制限などもしているため、10ポイント達成が難しくなっているかと思いますが、有効期限はありませんので、正念寺の様々な行事への参加をして、是非とも達成して下さい。

新型コロナウイルス禍での

お付き合ひエチケット

い。

昨年の今頃、新型コロナウイルスは遠く中国内陸部で流行している病気でした。正直、私たちはあまり気にも留めていなかったのではないかと思います。それが、瞬く間に世界中に流行してしまいました。

この病気について、恐れる方もいればそうで無い方もおります。その為にトラブルも起こっているようですが、この様な状態でのエチケットを考えてみたいと思います。

怖がっている方がいる限り、その方に合わせていくというのが正しい付き合い方ではないでしょうか。外出時のマスク着用や店の入退店時の消毒。帰ってからのうがい・手洗い。お互い気を付けて、うまく新型コロナウイルスと付き合っていきたいですね。

永代経法要のご案内

右ページにも書きましたが、九月十九日に行った一期一会コンサートにおいて、初めてZOOM配信も行いました。思った以上の方が視聴して下さいまして有り難く思います。今回の報恩講法要も含め、今後は永代経法要など、原則各種行事をZOOM配信していく予定です。

ZOOM配信については、各ご門徒宅に配布するチラシの他、正念寺LINEにご登録の方には、LINEのタイムラインでご案内いたします。また、ホームページなどのツールも使いながらご案内いたしますので、是非ご視聴下さい。

永代経法要については、例年同様来年三月八日の午後一時から護持会総会を行い、その後永代経のお勤め、そして一龍斎春水様の講談という流れになりますので、よろしくお願い致します。永代経法要の講談終了がほしい午後三時半くらいになるかと思っております。

なお、ZOOM配信をご視聴下さる方は正念寺ご門徒以外の方もおりますので、参れり寺カード押印のこともありますから、各自のお名前の前に「正念寺」を付けていただきたく存じます。永代経法要の配信時間は、法要開始五分前(だいたい午後一時四十分位)から、講談終了時間まで行いますので、心静かに法要にご参加いただければ有り難く存じます。

下記は、来年の永代経法要のQRコードになります。パスワードはありませんので、気軽にご視聴下さい。

また、ミーティングIDを入力される方は、
【84404057687】になります。



感謝録

今年も沢山のお仏供米をご奉納戴きました。

ここに謹んでご報告させて頂きます。

十月二十七日現在

常陸太田市

井坂 孝一様

井坂 哲也様

井坂 照雄様

井坂 友之様

井坂 豊子様

小菌 篤 様

小菌 達雄様

小菌 浩文様

小菌 光晴様

勝山 芳和様

仲村 義信様

平山 晶邦様

武藤 美徳様

那珂市

會澤 宏 様

浅川 泉 様

小田倉 敬様

檉村 一洋様

小澤 喜一様

萩野谷 明様

萩野谷 定之様

箕川 政一様

常陸大宮市

坪井 誠 様

ご奉納戴きましたお仏供米は大切に使用させて頂きます。

その他、報恩講法要や永代経法要に際し、また常日頃から農業をされている方々から、いろいろな野菜などのご奉納も戴いております。ここに報告と感謝を申し上げます。



正念寺ホームページのご案内

正念寺ではホームページがございます。常陸太田・正念寺で検索していただきますと「正念寺」のホームページが出てきます。

なお、現在ホームページのサーバーを移行中です。左QRコードは新しいサーバーのホームページになっております。

スマートフォンなどからは、下記QRコードを読み込んでください。



住職雑感

今回の新型コロナウイルス感染症がもたらした様々な変化。リモートによる会議などは良い変化としても、飲食店の倒産や閉店、航空会社の事業撤退などは悪い変化になります。

とは言え、これだけ沢山の方が怖がれば、当然経済に大きな影響があるのは自明の理。その辺のバランスの舵取りですから、政府は大変だろうと思います。

正直、政局にはあまり興味は無いのですが、野党も政府の揚げ足取りや言葉遊びをするので無く、しっかりと新型コロナウイルスと経済の問題に取りかかって戴きたいものだと思います。

さて、今回から『仏説阿弥陀経』についての意識を掲載していきます。このお経は、ご法事場でよく読まれるお経でもありますので、是非その意味を知って戴きたいと思つて連載する事になりました。

今回の掲載した中に「沢山の樂(物欲)によって得られるものや、心の持ちようでなく、常に楽しみや幸せが感じられる身になること」だけを受けているから、「極楽と名付ける」とありますが、私たちの世界も、「偽善・独善を離れ、是非この様な世界に近づいて欲しいもの」だと思えます。自戒を込めて。